

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2011

課題番号：19539002

研究課題名 (和文) グローバル化時代のインフォーマル経済とバリューチェーン

研究課題名 (英文)

The Informal Economy and the Value Chain in the Era of Globalization

研究代表者

遠藤 環 (Endo Tamaki )

埼玉大学・経済学部・講師

研究者番号：30452288

研究代表者の専門分野：都市経済学、開発経済学、地域研究

科研費の分科・細目：応用経済学 3604

キーワード：インフォーマル経済、都市、東南アジア、バリューチェーン

## 1. 研究計画の概要

本研究は、グローバル化時代のインフォーマル経済に注目しながら、バリューチェーン (Value Chain) 分析を、経済的側面、制度・社会的側面の両方から実証的に検討することが目的である。東南アジア、特にタイをフィールドに、主に労働集約的産業 (靴産業) に注目し、生産、流通・販売、消費に到るまでの商品の付加価値の連鎖を分析し、その空間的広がりや階層性・重層性を把握する。同時に各過程で従事する労働者の実態についても明らかにすることを目指す。特に商品連鎖の底辺にいる労働者に注目し、バリューチェーンの経済や権力構造、社会的側面の総合的な実証研究を通じて、インフォーマルな職業と貧困が結びつく条件とは何か、そもそもなぜインフォーマルな経済が再生産されているのかに関して検討を行う。具体的には、マクロ分析 (全体像の把握)、生産関係の類型別整理、付加価値連鎖の把握、ケーススタディ (零細資本、内職労働者など) によって構成されている。

## 2. 研究の進捗状況

初年度および2年目は、主にケーススタディを中心に進めた。零細資本の経営者及びその工場の労働者や下請けを担っている内職労働者に対して詳細なインタビュー、また参与観察などを実施した。同時に、生産関係を把握するため、生産者のみならず、タイ国内の卸問屋など、後方連関を追跡調査した。マクロな視点からは、輸出入統計の検討、商工会議所の靴産業部局や、工業省などにおける資料

収集やインタビューを行った。

現在までに明らかになった点は下記の通りである。第1に、タイの靴の主要な輸出先は、アメリカ、ベルギーなど欧米諸国が中心である。とはいえ、アラブ首長国連邦や中国なども重要な地位を占める。欧米諸国に対する輸出が年々減少しているのに対して、中国やその他の近隣アジア諸国 (パキスタン、ミャンマー、スリランカなど) に対する輸出は増え続けている。第2に、タイの労働集約産業を資本の特質から区分すれば、大きくはグローバル資本、タイ系地場資本、零細資本の3つが抽出できる。個別の企業へのインタビューから類推されるのは、前者2つは主に西欧諸国や日本をターゲットにしているのに対して、零細資本は近隣アジア諸国のローニッチ市場をターゲットにしている点である。ただし、残念ながらその全体像を把握出来るような統計や先行調査は存在していないため、継続して調査を行う予定である。第3に、零細資本のケーススタディでは、近隣アジア諸国のローニッチ市場をターゲットとした企業は、2008年度以降の金融・経済危機の影響をあまり受けておらず、順調に生産活動を拡大している点が明らかになった。例えば、ある工場では、近隣アジア諸国における現地工場の設立、タイの工場における移民労働者の雇用や東北地方の農村へのアウトソーシングなどを巧みに組み合わせ、安定した事業拡大を見せている。他方で、グローバル資本は、むしろ生産規模を縮小せざるを得ない事態に陥っている。零細資本自体がグローバルに展開し始めている点、また競争力を持っている点は重要である。その競争力の源泉を含め、最終年度はより詳細な分析、および成果

の発表をしていきたい。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

プロジェクト着手直後は、研究機関の移動などが重なり、若干スタートが遅れたものの、ケーススタディは順調に進んできているといえる。一方で、輸出入統計の分析結果をふまえた上での、タイ全体の靴産業の再編の状況の把握や、生産類型の整理は、データの制約もあり、若干遅れている。最終年度ではあるが、平成 22 年度は、この点の不足を補うため、企業に対する質問表調査を予定している。また、調査開始後、世界的な金融危機が勃発し、調査対象の零細資本にも深刻な打撃を与える事が予想されたが、「2. 研究の進捗状況」において前述の通り、これらの企業は、むしろ、戦略的にグローバル化をすることで、危機にも柔軟に対応してきている。その実態を把握するため、進出先や下請け先の工場や労働者の調査に関してより深めたい。

### 4. 今後の研究の推進方策

1. ケーススタディに関しては、バリューチェーンのマッピング結果をもとに、中心となる工場（零細資本）のみならず、各過程で関わっている労働者や下請け生産者に対しても、より体系的な調査を実施する。また、零細資本の競争力の源泉、海外展開の実態を把握する事を重視する。労働者に対しては、ライフコース分析を引き続き行う。
2. 輸出入統計のより詳細な分析を行い、アジア域内での靴産業の実態と再編の動向を確認する。
3. 生産関係の類型を把握するために、質問表調査を実施する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)  
投稿中の論文あり。

[学会発表] (計 2 件)

遠藤環、「都市下層民の職業移動と階層移動：バンコクの事例から」、国際開発学会、2007年11月24日、沖縄大学。

遠藤環、「タイにおけるインフォーマル経済：都市下層民の職業階層移動から」、日本タイ学会、2008年7月5日、一ツ橋大学。

[図書] (計 0 件)  
2010 年度出版予定。

[産業財産権]  
○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

Tamaki Endo, 'Occupational Change and Upward Mobility of Low Income Residents in Bangkok, Kyoto Working Papers on Area Studies No.65, March 2009.